

論壇

「特殊な職業」との認識

情報セキュリティやコンピュータプログラムなどのIT人材が著しく不足している。私の知人が経営する情報セキュリティの会社では、世間の常識よりかなり高い給与を提供することで優秀な人材を多数確保することに成功している。この若い人材にさまざまな機会を提供することで育て、会社の成長につなげようとしている。

ところが、そうした人材が育つた頃に、大手の優良企業にスカウトされてしまう人が多く出てしまうようだ。せっかく大切に育てたのにと、この社長は悔しがっている。

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

不足するIT人材

だが、情報セキュリティの分野は、それほど人材不足の状態なのだ。人材が不足していれば賃金は上昇するし、人の取り合いが激しくなるのは当然のことかもしれない。

問題は、これだけ人材不足が続いているのに、なぜIT人材が増えていかないのかということだ。

か、多くの若者が真剣に考えている。多くの人が考えるのが、理系の大学に進学して、IT関連の仕事に就けば、明るい未来が期待できるというものだ。結果的に、インドは多くのIT人材を輩出している。

AI(人工知能)やロボットの進化のスピードを考えれば、今後

周りのいろいろな若い人に聞いてみると、IT関連の仕事に就きたいという意欲を持っている人は少ない。多くの人はIT関連の仕事は自分には関係のない特殊な職業だと考えているようだ。

これは、例えばインドなどは随分と違う。一般的に所得の低いインドでは、どのような職業に就いたら豊かな人生設計が描ける

力を身に付けた人が大量に余るということはありえない。それどころか、深刻なIT人材不足が今後さらに悪化する可能性の方がはるかに大きい。

新しい技術が出てきたときには、それに対応できる能力を人間が身に付けることが必要となる。IT人材を増やしていくことは、

社会全体として取り組む重要な課題であるはずだ。小学校などでプログラミング教育が導入されようとするのは好ましい動きであると思う。プログラミングだけでなく、広くITを利用する機会を若い人たちが持てるようにすることが必要だろう。

AI有効活用のために

AIとはArtificial Intelligence(人工知能)のことである。ある人が、

AIはIAにしてこそ、初めて威力を発揮すると言っていた。ここでの、IAとはIntelligence Assistance(知的補助)のことである。つまり、AIの助けを借りながら、知的作業を実行していくことである。AIがなんでもやってくれるので、人間が必要ないというのはない。

人間がより高度な仕事をするために、AIの助けが有効であるのだ。そうなるためにも、私たち人間がAIをより有効に活用できるような能力を身に付ける必要がある。技術革新に合わせて、私たち人間も能力を向上させていく必要がある。若い世代や子供たちにそうした能力取得の機会を提供するのが、私たち大人の使命であるはずだ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。